

会議録（要点記録）

| | | | |
|-------|--|------|----|
| 会議名称 | 令和7年度 第3回小金井市精神保健福祉連絡協議会 | | |
| 開催日時 | 令和8年2月19日（木）14:00～15:46 | | |
| 開催場所 | 市役所第二庁舎8階 801会議室 | | |
| 出席者等 | <p>小高会長、有泉委員、菊池委員、坂上委員、牧野委員、執行委員、赤濱委員、鈴木（絵）委員、山岡委員、石川委員、鈴木（澄）委員、高橋（杏）委員、高橋（正）委員（欠席）</p> <p>事務局：自立生活支援課長、自立生活支援課相談支援係長、相談支援係主任</p> | | |
| 傍聴の可否 | 可 | 傍聴者数 | 1名 |
| 会議次第 | <p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 目標の進捗状況について（「地域移行支援」の支援状況の報告）</p> <p>(2) 退院促進リーフレットの運用状況について</p> <p>(3) 精神保健福祉連絡協議会で協議された課題について</p> <p>(4) その他</p> <p>3 次回の開催日について</p> <p>4 閉会</p> | | |
| 会議結果 | <p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 目標の進捗状況について（「地域移行支援」の支援状況の報告）</p> <p>◎事務局 障害福祉計画における、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る活動指標として、第1回で長期入院者等の地域移行者数について目標設定を行い、第2回でその進捗を確認、第3回で目標に対する評価を行っている。報告とともに、目標に対する評価をしていただきたい。</p> <p>第7期障害福祉計画では精神障害者の地域移行支援の利用者数について、令和7年度は5人を目標と定めたところ、第1回協議会開催時点で既に2人地域生活に移行していたため、今年度は長期入院者3人を地域生活に移行できるよう支援することを目標とした。</p> <p>◎事務局 第2回協議会において、地域移行の目標数5件について、既に達成をしていると報告したが、改めて精査したところ4件だったので訂正して報告する。</p> <p>初めに、表の番号2番、44歳。本人の希望により実家に退院され、間もなく再入院。現在は家事の練習をして、退院に向けて訓練中。地域移行支援の支給決定には至っていない。背景に、6か月間という有期限の支給決定がプレッシャーになっている。</p> <p>6番、61歳女性。地域移行支援の面談が刺激になって病状が不安</p> | | |

定になるため、面談頻度を少なくして支援を継続。しかし、地域移行支援の2度目の延長が令和8年4月末で満期となるものの、入院中に骨折し、車椅子や歩行器の使用を余儀なくされている状態。身体状況及び年齢を勘案すると、障がいのグループホームよりも介護保険によるサービスで支援をすることが現実的なのではないかという意見もあり、一旦4月末で地域移行支援を終了する方針である。

7番、52歳の男性。シェアハウスタイプと独立アパートタイプのグループホームの見学を継続中。

9番、70歳男性。介護保険の制度で利用できるグループホームや有料老人ホームの見学を進めており、本人、家族ともに気に入られた施設に申込みした。施設見学したところ、本人の様子を見た施設職員から、受け入れについて前向きな発言があったとのこと。ただし、最終的には入院先から提供される診療情報提供書を見て判断すること。

最後に、12番、64歳の男性。令和7年10月に入院。自宅への退院は難しいとの判断から病院主導でグループホームの入居を目指していたが難航。入院の長期化が懸念されるため、病院側より地域移行支援の利用の打診を受けた。令和8年2月中に入院されている病院を訪問し、調査及び申請受付予定。

なお、年度当初に掲げていた目標数5件に対する今日時点での結果としては、4名の方が退院、地域生活移行済み。加えて、番号9番が退院すれば、合計5名の方が今年度中に退院となる。

◎会長 現在は目標達成していないが、年度末までに1名の退院の可能性があるとということで、状況から今後目標を達成する可能性が高いと考えられる。協議会として今年度については目標達成と評価したいかがか。

(意見なし)

◎会長 今年度は目標達成としてこの協議会からは評価する。

(2) 退院促進リーフレットの運用状況について

◎事務局 第2期小金井市精神保健福祉連絡協議会にて、退院促進のリーフレットを作成した。作成したリーフレットについては、令和7年3月に先行して市内病院に配布した。リーフレットについて病院での運用、入院した患者への配布状況や反響等を確認したい。

(委員意見概要)

- ・対象者全員に配布したが明確な反応は確認できなかった。しかし、退院が決まっている人は興味を持っているようだった。
- ・退院促進で地域移行が達成できそうな方はすでに退院していて、残っている人たちは、身体の合併症があるような方が多い。
- ・地域移行支援について、高齢者は現実的に難しい方が多いが、ある程度可能性がある方については積極的に活用していきたい。

◎会長 質問、意見等あるか。

(発言なし)

(3) 精神保健福祉連絡協議会で協議された課題について

◎事務局 前回協議会に引き続き、継続協議している精神保健福祉に関する課題について、令和8年1月に開催した令和7年度第4回小金井市精神保健福祉連絡協議会部会で協議内容を整理し、課題解決に向けた具体案について協議した。

◎事務局 資料2-1。こちらは令和7年11月に開催した協議会の会議録「ヘルパー、福祉分野職員の就労について」「ボランティアについて」「ピアの活用について」の3点に課題を集約した。各課題の議論については、資料2-2の部会会議録に記載のとおり。

福祉分野の就労については、人材確保の取組として自治体の後援等で相談会、面接会を行っている事例があるとのこと。メリットとしては、雇用コストの減や現役職員との交流など福祉業界に特化した情報共有の機会が提供できるとのことで、さらにより具体的に分かりやすく福祉就労のイメージが持てるとのこと。

また、業務負担軽減のため、業務のICT化についての支援、具体的にはベンダーの比較や機器導入の支援について行政が支援することで事務所の負担が軽減するのではないかと提案がなされた。

さらに、現在小金井市社会福祉協議会で行っている精神保健福祉ボランティア養成講座、市主催の精神障害者ホームヘルパーフォローアップ研修との連携で、より身近に福祉の仕事を説明できるのではないかと提案もあった。

人材確保の一環としてボランティア活動を就労につなげるきっかけとすることについては、敷居を下げるという意味で効果が期待できるという意見もある一方で、過去の協議にもあったとおり、精神障害のある方の支援について個別対応の必要性、繰り返しの行動に対する対応、支援に取りかかるまでに時間がかかることなどの傾向から、対応には一定の技量が求められる。以上からボランティアの活用に関しては慎重な意見もあった。

ピアの活用について、東京都が開催した精神障害者地域生活移行支援会議の中でも話題になっており、事業実施について一定検討が必要であると考える一方、サポーター人材についてどのように確保するのかが課題という意見があった。また、ピア活動を地元で行うことによって、活動される方がオンオフの切替えができず、精神衛生に影響を及ぼす可能性があるため、地元以外の自治体で活動を行い、地元自治体では当事者として支援を受けるといった、いわゆる他自治体との連携、「たすき掛け」という人材交流の仕組みを構築するのがよいのではないかと意見もあった。また、ピア活動については、地域移行を促進する地域移行支援だけでなく、交流室のスタッフとしても活動し

ていけるような仕組みの整備等の提案もあった。最後に、事業化の際には先行自治体などの視察を行う必要性も意見として出された。

一方で、当事者側の意見に耳を傾け、「ピア」という事実を利用されている、また、「活用」という表現について区別されているなどの誤解がなされないような事業実施体制の整備や丁寧な説明を行うべきとの意見もあった。

◎会長 追加でピアについて、どの場であるかということも一定のディスカッションが必要かと思う。退院支援と地域移行というところで、長期在院を経験した方が病院に赴いて、患者とコミュニケーションを図る地域移行のサポーターのような形で活躍いただく。これは「大阪方式」と言われていたが、そんな形か、それとも別形態で、交流室のスタッフとして地域での事業所などで活動いただくとか、意見などがあるといい。単にピアといっても、実際に活動したい方がどこでどのように活動していただくということがあると思う。

どの場で、となった際、実際に効果があるものとして既に推奨されてきているものか、あるいは問題が発生するようなことはないか。地元で活動するとオンオフの使い分けができないとあったが、実際にその方たちのスーパービジョン的なサポートをどうするとか、困ったときに誰がどのように支えるのかも併せて考えていかないと、その方たち単独で活動いただくということはいろんな意味で課題も生じてくる可能性もあると思うので、人材確保に努めながら議論していく必要があると思う。

また、当事者の方の意見を聞くべきではないかと思う。ピアに活躍いただくというところで、本人抜きに考えていくというのに疑問があり、例えば協議会の場にお越しいただくとか、そういった当事者の政策参加が大事だと思い提案したい。

いろんな活用例・活動例があるが、例えば地元でピア活動をするとう具合が悪くなるというのは恐らく1名とか2名で、一般的な意見なのか分からないので、実際にピアの方が活動している自治体とか当事者に話を具体的に伺うことが必要だと思う。

既に効果が認められている、例えばWRAPなどのプログラムを活用していくかどうかということも協議が必要かなと思う。地域での事業所の活動になると、WRAPのような、既に安全性が確保されたりとか、効果が認められると言われていたり、認定研修みたいなものを既に受講されたファシリテーターとしての活動ができる方がいるとか、あるいはその養成自体を小金井市として行うのかということも考えてもいいのではないかと思う。

◎委員 小金井市でピアの活用をするところでキーになる機関があるのか、活動をその機関がバックアップして支えているのか。

◎事務局 具体的に本市では事業として実施していない。部会で他市

の事例を紹介してもらいながら検討している状況。小金井市地域自立生活支援センターでピア相談という形で行っている。

◎委員 ピア相談という形で、市内の当事者団体から推薦された方に相談員をしてもらっている。精神障がいの方だけではなく、全部で6種別の障害の方の相談員がいる。その中の一人が、心の相談ということで精神障がいの方のピア相談を受けている。年に8回があり予約のうえ相談を受けている。実情として、ピアの方も当事者であるので波がある。また個人で入られると、困ったときに相談できるところがないので、団体に所属している方にしている。また、通所先とやり取りして、バックアップするという形を取っている。所属先があったほうが、何かあったときに安心だと思う。年8回のうち、実際の開催は2回か、あって3回ぐらい。ピアの方の体調が悪くてキャンセルになるとか、逆に相談される方の体調が悪く先延ばしになることもある。問合せはあるが、なかなかうまくいかず悩んでいる。ただ、ピアの方も活動がモチベーションになっている。

◎会長 どういう方をピアと呼ぶのか、どこで活動するのかによっても変わると思う。学生の中にも精神疾患を持つ学生がいて、それもある意味ピアになる。活動場所、どういう方をリクルートするか。また1名だと、体調によって相談会を開きたくても開けず、ニーズがあっても満たせないということになる。

◎委員 東京都の障害者ピアサポート研修が年に1回、2日間あり、ピアの方と、事業所の方と一緒に研修に参加し、午後はピアの方と事業所で分かれて研修し、研修を受けた人がピアサポーターとなる。研修に出る方はサポーターになりたいアイデンティティーがあるので、一般の人と区別されているというような気持ちはないと思う。稲城市、府中市のほうで、にも包括に事業所のスタッフと本人2人セットで参加、席があれば2組参加している。1人で責任を負わず、2人の意見が活かされる形を取っており、もし途中で気分が悪くなったときも一緒にセットで来ている方がフォローしている。

◎会長 具体的にその研修を受けられる方は1回の研修でどれくらいいるか。

◎委員 50名ぐらい。

◎会長 1つの事業所から2ペアという形か。

◎委員 そこまでは聞いていないが、必ず事業所の職員と一緒に来るとのことで、2人だとその人に事業所の方が1人ずつついてくる。

「たすき掛け」の話が出たが、地元でやることには違和感を持たないが、自分の通院している病院では嫌がると言っていた。

◎委員 介護の分野では、介護の日というのがあって、大きいホールで大々的に当事者の方が実施している。障がいの分野も一緒にできたらいいと思う。

◎会長 ピアの方がどんな活動をしてもらえるか、あるいは何をしてもらいたいのかということも考えていく必要があると思う。

◎委員 地域活動支援センターI型事業というのは、比較的、相談支援事業所が併設して運営している事業所が結構あり、横のつながりもある。ピアの方を雇用して一緒に事業を進めていくという事例を聞いて、いつかは携わりたいと思い、コロナ禍前あたりから、他自治体の地域活動支援センターで、当事者の方が採用され働いているとのことでどういった活動をされているか話を伺った。会うと、波がある中でも同僚に支えてもらいながら活動していた。話を聞いていく中では、その人ありきで採用活動することができるところが多分にあり、やりたいからやれるわけでもない聞いた。一方近隣自治体でも、ピアのことをライフパートナー、通称LP活動という形で、ピアの方が車で移動して、入院されている方に会いに行くという事業をやっている、コロナ禍で一旦中断し、また復活しつつあるという話は聞いていて全国的に見てもそういった活動をやられているところがある。

一昨年、区部の事業所で、「たすき掛け」支援というのがあって、自分の住んでいるまちで、自分が利用している地域活動支援センターで採用されて、交流室、フリースペースで話をすると、今までは普通に話していた仲間だったけど、お金が発生しているため違う雰囲気が出て、フリースペースにいるのがつらくなり、事務仕事をメインにしたくなる。自分にとって職場ではあるが今まで相談をしていた場所だったということで、プライベートと仕事との境が見えなくなって、辞めざるを得なくなる、体調を崩してしまうことが頻発したようだ。これを解消しようということで、互いのセンターで、この方であればと希望が出ている方に関して、自分の住んでいる町でない場所に紹介し合い、仕事場は自分の住んでいない町の支援センターの職員、プライベート相談は自分の住んでいるまちの支援センターの職員に相談するという、「たすき掛け」プロジェクトという名の下に、当事者がやり切れなくなるようなことが起こらないような仕組みを進めていこうという考え方。説明会にはネクタイ、背広を着て参加している当事者の方もいた。すべからく採用されるわけではないが、皆真剣に自分が活躍できる場があるかもしれないという思いで来られる。動機づけ支援、地域移行、退院に及ばないという方に対してのアプローチを当事者の方と一緒に動機づけの支援ができたらいと思う。それはやはり当事者でなければできない共感力、地域に出てみたら本当によかったということの説明は我々にはできない。

その区ではお金をもらって働いている当事者をピアスタッフ、登録してボランティアで活動している方をピアサポーターと呼んでいる。登録者数は270名。これは区民に限らずかなり広域の方が登録されている。実態として動いているのは20名くらい。その方たちと一緒に

に学習会、ミーティング、勉強会等いろいろやっている。近隣自治体の病院の退院促進委員会と協議しながら、ピアレーターと呼ばれる手紙での交流をしながら悩みを聞く、地域の話を行う。事業所のスタッフと、採用されたピアスタッフの方が一緒に病院に乗り込み、その退院促進に向けた動機づけ支援をやっている。ここまでできたら理想と思うが、相当な規模の話になってくるので、小金井市でスタートを切るのであれば、できれば動機づけ支援という部分からスタートさせてもらえたらありがたいと思う。

この動きは、4月から近隣自治体でも始まると聞いていて、多摩総合精神保健福祉センターが年に1回開く北多摩南部圏域の会議体でも、例年だと地域移行、地域定着、自立生活援助の数値目標や、にも包括の活動報告等が、圏域の6市の内容がわかる資料がある。今年度からはピア活動も新しく項目が加わった。小金井市においても、ピアの方が生き生きと活動できる場というものを構築できるような流れができればと思う。

◎会長 ヘルパーの確保、ボランティアの方の活動のこと、ピアの3つの取組が上がっている。一昨年度地域の事業所の方にアンケート調査した際に、20、30と課題を挙げていただいて、比較的多かった課題として、ヘルパー不足というところが上がってきた。いわゆる人材不足にピアの方が活躍いただく結びつきも何となくでき始めているというところかと思う。

当初、地域包括ピアシステムというところでの議論のスタートは、小金井市としてどんなニーズがあるのかのあぶり出しから始まっているので、そこが大きく外れないほうが良いと思う。ただ、2年、3年たつごとに、ニーズや近隣自治体の動きも変わってくると思うので、改めて意見を頂戴したい。

◎委員 ヘルパー不足、ピアの方の活躍の話聞いたが、いろいろな問題があって、どう増やしていくのかと話が進み、ピアの活用というところになっていると思うが、地域の方も含めて、ヘルパーがどういうものなのかとか、ピアの活用、ピアサポーターというのがどういうものなのかというのを知っていただくのが大事だと思う。実際に活躍している方に来ていただき話を聞く場を設ける必要があると思う。地域住民の方とか、実際ボランティアをやりたい、ピアサポートをやりたいと思っている方に対して広く周知をできるといい。

◎委員 ヘルパーとか福祉の分野で働いてくださる方にまず仕事を知っていただくため、他自治体では市報で1面に福祉の仕事について紹介をしていたところがあり、多くの方に見てもらえそうだった。ただ、働いてくださいというのを前面に出しているのではなく、知っていただくというところをメインにされているような印象で、最後のほうに、興味があったら連絡をと書いてあって、直接的にすぐに就労

というふうに結びつくものではないと思うが、まずは知っていただくというところではよい方法と感じた。

ピアの方は、どんな相談が来るか、誰が来るのか。が分からないのは不安だろうと感じた。どの場で活動してもらうのかという内容を決めるというのは大事と感じた。意欲を持ってやる方の精神的な安全を確保したうえで実施するというのがよいと感じた。

他自治体で知的障がいのある方を対象としグループホームに3か月、有期で試泊し目標を定めてやってみて振り返りを行うという事業がある。例えばだがそういう事業の中で、一人暮らしの先輩としてピアサポーターに入ってもらい、朝のごみ出しとか、朝起きられないがどうしたらいいか、どういう工夫をしているか、などの質問に答えるとか、そのように関わっていただくのもいいのかと思った。

◎委員 ピアサポーターは、自分も障がいを負ってある程度克服してきて、それをほかの当事者の方に生かしていくということだと思うが、自分でピアサポートをやろうというところまで行かないというか、周りの専門職がある程度、見極めることが必要で、自身でそれを決めるのはなかなか難しいと感じている。東京都のピアサポーター研修に参加したが、皆障がいをオープンにはしていないが、精神障がいの方が多い印象。皆働いている場所や通われている場所で「やってみないか。」と言われて始めた、という方が多かった。なので当事者の方の強みを見極める専門職が周りにいるというのも大事だと思った。

「たすき掛け」の支援も、市内でもピアサポーターだったらここ、という拠点、中心になる事業所を決めて、小金井市内でも精神障がいの方と関係するような事業所で情報共有をして、人材がいたら「ピアサポーターをやってみないか。」と勧める。ほかの自治体とのやり取りしつつ、小金井市内の中でもそれに適応できるような方がいるかもしれないし、人材発掘というところで可能性もあるかと思った。

◎委員 福祉NPO連絡会、社会福祉法人連絡会に参加しても、どこも人材不足を嘆いており、マンパワー不足で必要としている方に対応できないという苦しさを感じていると思った。我々も重くこの問題を捉えており、東社協に確認したところ、社協でも福祉に関する相談会ができると聞いたので、来年度または再来年度ぐらいには実現したいが、市とかハローワークなどの協力を得てからじゃないといけない。すぐに精神の人材、ヘルパーを確保できるか分からないが、土壌づくりはしていきたい。

ひきこもり支援を行っており、精神障がいの方と必ずしも一致するわけではないが、初めて参加された方に、当事者と同じような経験をされている方がいフォローをしているのを実際に目で見て感じるので、支援者との距離感ではない関わり方ができるのがピアのよさと感じている。ただ、我々支援者も生きづらさを抱えている方と接し

| | |
|------|---|
| | <p>ていく中で、彼らのペースを日々大切にして接している部分もあるので、ピアの方をサポートするサポーターを整えないと、よさを出し切れないと感じている。</p> <p>◎委員 ヘルパー不足の件に関してはいろんな視点から考えていく必要がある。計画相談員として、地域移行で地域に帰ろうとしている人に対し「心配なところ、できないところはちゃんと地域が支えるから。」と言っておきながら、地域に戻って計画を立てたら、事業所が見つからない、ヘルパーがいなくなったら、本末転倒になってしまう。計画が立てられればすべからくうまくいくわけではなく、支え手がいないとどうにもならない。この件に関して終息に向かっていく見立ては全くなく、真逆であると言わざるを得ない。ピア、当事者の話を混ぜると、例えばサ高住だとか有料老人ホームの、ヘルパーはできないが、掃除のアルバイトをしてもらうとか、そういった形からスタートして、できればヘルパーに興味を持ってもらって、資格ヘルパーのほうに行ってもらえたらと思う方はいるが、ヘルパー不足の中でそういう方を期待しながら増やしていければ、という思いもあってもいいと思うが、それで充足する話ではない。</p> <p>もう一つヘルパーに関して、人材不足だと人の奪い合いとなるから、待遇面というところがある。直近だと、ヘルパー事業所、各類型によって加算のパーセンテージが違い、共同生活援助、ヘルパー事業所はパーセンテージが高いけど集まらないということは、実際に支払われているのはどの程度なのか興味がある。当然、高いベースが出るのであれば、やってみようかという人は出てくるとは思うので、その辺の情報も今後は知っていてもいいと思う。</p> <p>(次回に向けての提言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談会、説明会などを取り入れて、リクルートに積極的に活動されている自治体などがあるかの調査。 ・ピアの方が活動されている現場について、どのような場所で活動されているかの現状把握。 ・ピアの活動の仕方について、安全・安心に活動できる工夫があるかの事例調査。 ・近隣の市区町村でピア活動に関する事業展開の現状確認。 ・障害福祉サービスのピア加算の詳細についての情報共有。 <p>3 次回の開催について (予定)</p> <p>日時 令和8年5月20日 水曜日 午前中</p> <p>場所 市役所第二庁舎801会議室</p> <p>4 閉会</p> |
| 提出資料 | <p>資料1 「地域移行支援」の支援状況</p> <p>資料2-1 第2回小金井市精神保健福祉連絡協議会 会議録</p> <p>資料2-2 第4回小金井市精神保健福祉連絡協議会 部会 会議録</p> |

